

概要

- ◆氏名・所在地
大賀 一 鳥取県米子市
- ◆就農年
令和7年2月
- ◆経営規模
白ねぎ 0.45ha（就農時）（計画2ha）
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
白ねぎ栽培に取り組む



大賀氏

1

就農相談までの背景

前職場は経営者の都合により廃業することになったため、以前から思い描いていた農業を職業にすることを考えた。白ねぎ生産者の友人を見ていて、仕事をした事が自分に返ってくる実感がある事に農業の魅力を感じた。その友人に、就農について相談したところ、鳥取県農業経営・就農支援センター（以下、支援センター）の相談員を紹介された。

2

相談内容

「米子市で白ねぎ栽培を始めたい」と大まかな構想があったため、白ねぎ生産者の友人に農業の話聞いた。しかし、農業を始めるための知識がほとんどなかったことから、技術、知識習得の方法、就農の計画、行政の補助事業について情報を求めた。

3

支援内容

●就農情報の提供と関係機関への情報共有

農業未経験であることから、支援センター発行の新規就農希望者向けパンフレットを基に、農業の基礎から実践までを学べる研修体系や補助事業の情報、就農に向けて支援していく関係機関を紹介した。また、相談者の同意の上で関係機関に就農相談内容を共有した。

●研修機関の紹介

短期間（4ヶ月）で基礎的な知識、技術の習得ができる県立農業大学校アグリチャレンジ科（公共職業訓練）、先進農家の下で1年間、栽培、経営を実践的に学べる（公財）鳥取県農業農村担い手育成機構（以下、機構）のアグリスタート研修受講を勧めた。

大賀氏は計1年4ヶ月の研修により、一通りの経営感覚・技術を身に付けた。

●関係機関との連携による就農に向けた支援

アグリスタート研修中に指導農家や機構が農地の確保の支援を行った。運転資金等の確保や機械、施設整備に県の補助事業を活用するため、事業要件である認定新規就農者の認定取得に向け、普及指導センター、米子市、機構が連携して青年等就農計画の策定を支援した。

指導農家を含めて産地が積極的に受け入れ、大賀氏は晴れて、白ねぎ生産部員として就農した。



指導農家による研修の様子（右側）



アグリスタート研修での集合研修の様子（右から2番目）

今後の意気込み

アグリスタート研修で1年間お世話になった指導農家は高品質な白ねぎを継続して生産し、出荷することを第一に考えておられます。そのことが産地を守る唯一の方法であることも教えて頂きました。私もその思いを大切にコソコソと頑張っていきたいと思います。

専属スタッフ所感

就農相談時の真摯な姿勢から就農に向けて強い意欲を感じました。農業への転職を選択された事は強い決断が必要だったと思いますが、研修を受けておられる時の姿は生き生きとして楽しそうにしておられたことが印象に残っています。研修は楽ではなかったと思いますが、それを乗り越えて技術、知識を身に付けられて自営就農された事はとても嬉しく思います。就農後も経営発展を支援するとともに良き相談相手でいたいと思います。



西原氏（右）

概要

◆氏名・所在地

西原 宏幸 島根県鹿足郡津和野町

◆研修開始年

令和6年5月

◆研修内容

野菜栽培での就農を希望し、1年間の産業体験（長期研修）に取り組んでいる。

1 就農相談までの背景

長年会社員として主に営業の仕事に携わっていたが、以前より自然に関する仕事がしたいと考えていた。40歳頃から少しずつ情報収集を進め、子どもが大きくなった50代後半に本格的に就農したいと決意した。就農相談イベントに参加し、島根県の市町村ブースで親切に対応してもらったことがきっかけで、島根県での就農を検討するようになった。そこで、県の相談窓口である「島根県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」に連絡した。

2 相談内容

島根県での就農を検討しているが、まずは農業体験や農家さんの話を聞きたい。野菜での就農を考えており、どの地域で何の品目が栽培されているか、また就農支援策についても詳しく知りたい。

3 支援内容

●就農相談ツアーでの現地案内

県東部で開催した「就農相談ツアー」で、就農支援策の説明を行い、パプリカやトマト等の産地見学、農作業体験、先輩農家との意見交換などをアテンドした。

就農の具体的なイメージを掴めた一方で、大規模な施設栽培は西原氏の想定していた農業とは異なる部分があったため、継続して就農相談に応じることとした。

●就農専属スタッフによる継続相談対応

メール・電話での就農相談を継続的にを行い、初期投資の少ない露地野菜での就農を希望されたことから、**露地野菜でのIターン者就農実績がある県西部の津和野町を勧め、半農半X（兼業農業）による就農を目指すことを提案した。**

●短期農業体験の実施

支援センターの就農相談窓口を担う(公財)しまね農業振興公社が実施する短期農業体験「しまね農業体験プログラム」を活用し、津和野町での野菜をメインとした農作業体験を設定した。**就農専属スタッフと町担当者が連携して農業体験先の選定、体験時のサポートを行った。**

●研修先の決定

津和野町内で2度農業体験プログラムを実施し、津和野町への移住と就農を決意された。町内の篤農家のもとで、(公財)ふるさと島根定住財団の「UIターンしまね産業体験事業」を活用し、1年間の研修を行っている。



就農相談ツアーにおける農作業体験の様子



栽培指導の様子

今後の意気込み

町の担当者や就農専属スタッフには、就農に向けた資金面、生活面まで様々な相談にのっていただき助かっています。農地も決まり、就農に向けて準備が進んでいますが、楽しみながら全力で農業に取り組んでいきたいと考えています。

専属スタッフ所感

今回の相談者は特に就農の意欲が高く、情報収集を活発に行われる中で支援センターに相談をいただきました。その想いを受け止め、支援センターで相談活動を進めながら、関係機関と連携し、円滑に研修まで導くことができました。今後も就農に向けて引き続き支援を行っていきます。

新見のぶどうに魅せられて、無理のない栽培を

その他（研修）



ぶどうのせん定について指導を受けるI氏

概要

◆氏名・所在地

I 氏 岡山県新見市

◆研修開始年

令和6年10月（農業体験研修）

◆研修内容

ぶどうの収穫や選果作業、地域との交流などを1か月間研修し、就農を決心。令和7年3月から2年間の長期研修に取り組む。

1

就農相談までの背景

趣味で野菜を栽培し、自然の中での作業や手間暇をかけ努力した結果が反映されることに魅力を感じ、本格的に農業をやってみたいと思うようになった。

岡山県新見市で開催された就農オリエンテーションに参加し、ぶどうに興味を持ち、新規就農者を募集していることを聞き、就農相談窓口になっている「新見農業普及指導センター（以下「普及指導センター」という）へ相談した。

2

相談内容

新見市の新規就農者募集のことを知り、ぶどう（ピオーネ）を本格的に栽培し、生活していける新規就農をめざしたい。

ぶどうの栽培の知識はなく、中山間地域での農村生活がどのようなものかわからないので、具体的な農作業、地域の概要や農家生活、農地や住居の確保について知りたい。

3

支援内容

●研修制度の紹介

普及指導センターでは、就農までのプロセス、1か月間の農業体験研修、2年以内の農業実務研修といった段階的に就農まで進むことができる県独自の研修制度を紹介するとともに、農業体験研修の受入れ先との調整を行った。また、研修中に活用できる就農準備資金、経営開始資金等について説明した。

また、「岡山県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」では、県域を対象とする新規就農セミナーへの参加等を通じて、新規就農者の事例紹介等を行った。

●関係機関との連携による取組

新規就農者の受入れを積極的に進めている新見市、JA晴れの国岡山、阿新ぶどう部会と普及指導センターが密接に連携し、農家での体験の支援、地域の紹介、選果場での体験を実施した。

今後も引き続き就農に向けて支援していく。

●2年間の農業実務研修へ

就農準備資金も活用しながら、令和7年3月から2年間の農業実務研修に進み、当面栽培面積30aを目標に、農地(成園)の確保を支援していく。



就農相談の様子



オリエンテーションでぶどう栽培の説明を受けるI氏

今後の意気込み

一連の作業工程を学ぶとともに、研修中に地域の方々と積極的にコミュニケーションをとって、就農後に成園や空き家を借りられる機会ができるよう努力したいと思います。

当面は1人で就農する計画で、栽培面積30aを目標に省力化を心掛け、無理のない農業経営に取り組みたいと思っています。

専属スタッフ所感

相談者は研修期間中、積極的に学ぶ姿勢で取り組んでおられ、体力面、精神面での問題もなく、イベントを通じた地域の方との交流、先輩農業者との情報交換など、地域に溶け込もうとする姿勢が見られました。

今後も新規就農希望の方がスムーズに就農に向けて進んでいけるよう、普及指導センターや市、JA、生産部会などが連携して対応していきます。



濱寄氏

概要

- ◆氏名・所在地
濱寄 司 広島県東広島市
- ◆研修開始年
令和7年4月
- ◆研修内容
柑橘での自営就農に向け研修に取り組む

1

就農相談までの背景

他県で会社務めをしていたが、親の看護のため帰省し、今後の事を考えていたそのような時、「広島県農業経営・就農支援センター」（以下支援センターという）主催の就農応援フェアを知り、参加したことで、広島県の農業について多くの情報を得ることができ、ぶどうの栽培に興味をもった。行動を起こすにあたり、情報の整理と新たな情報を得るため、支援センターに相談した。

2

相談内容

東広島市でぶどうの観光農園をやりたいが、①どこで栽培技術を学ぶか ②農地の確保はどうすればよいか ③生活するための経営規模などの相談を受けた。
また、ぶどうだけではなく、果樹全般の情報についても情報があればほしいと希望された。

3

支援内容

●研修機関等の紹介や研修先の決定

支援センターでは、本人の意向を確認しながら、研修機関の紹介、地元の観光農園、経営指標など就農に向けて参考にしてもらいたい情報を提供した。

相談者が農業体験への参加や積極的に研修機関や先輩農業者を訪問し、情報収集した結果、最初はぶどうの就農を考えていたが、ミカンとレモンでの就農を目指すこととなり、柑橘の研修を実施している J A 広島果実連の研修（宮盛農園）に申込を行い、審査を得て、令和7年4月から研修をスタートすることとなった。

●関係機関との連携による取組

今後は、J A 広島果実連、J A ひろしま、東広島市農林水産課と連携し、栽培技術の習得、園地の確保など協力して支援体制を構築していく

●就農市町村の決定

就農予定地である東広島市には濱寄さんの強い思い入れもあり、農業に関わる知人もおられ、困ったときに相談ができる人間関係を築きながら、2年間の研修後には地域への円滑な定着が期待できる



就農相談の様子



令和6年に開催したフェアの様子

今後の意気込み

支援センターへの就農相談を契機に夢の実現に向け一歩を踏み出し、ここまでたどり着くことが出来ました。今後も携わって頂いた関係者の方々に助けていただきながら1日も早く知識や技術を身に付け、農業で地域に貢献したいと思っています。

専属スタッフ所感

濱寄さんは以前販売関係のお仕事に関わっておられましたが、持ち前の明るさと行動力で周りの人たちを巻き込んでいける人のように思いました。地域にいないくはならない人になっていただけたと思いますので、今後も支援センターとしても後押しをしていく予定です。



就農相談の様子

概要

- ◆氏名・所在地
M. A氏 埼玉県川口市
- ◆就農年
令和7年5月以降予定
- ◆経営規模
未定
- ◆従業員数
未定
- ◆事業内容
施設野菜やイチゴの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

大阪で生まれ育ったが、定年退職を迎える年齢になったことを踏まえ、親の実家がある山口県にUターンし、親とともに農業に取り組みたいという思いが芽生えた。

しかし、自分自身の農業に対する知識や経験が少なく、就農に向けた準備不足と不安を感じたため、新・農業人フェア（令和6年12月）に参加し、「山口県農業経営・就農支援センター」に相談した。

2 相談内容

親の実家がある山口県東部地域（柳井・大島）での就農を考えていたが、農業を始める際に必要となる資金や栽培技術の水準、知識の習得方法などに関する疑問や不安が大きかったため、就農専属スタッフに相談した。

また、自営就農に対する助成・支援制度や求人のある農業法人の情報について知りたい。

3 支援内容

●就農までの流れについての相談対応

就農に対するビジョンが十分に描き切れておらず、農業経営に必要な知識や情報も不足していたが、特に、栽培技術の習得に不安を抱えていることが浮き彫りとなった。

このため、就農専属スタッフから、就農前の体験・研修の重要性を解説し、研修機関等での技術習得を提案した。

●研修機関等の紹介

相談者の様子を踏まえ、栽培技術の習得と座学を一体的に学ぶことができる農業大学の社会人コース（就農支援塾）の概要と参加手続きについて説明した。

●就農・就業に向けた支援メニュー等の紹介

山口県や県内の各市町で実施されている補助事業制度（中古の農業用機械や施設を利活用する事業等）の情報を提供した。

また、県内で開催される産地見学ツアーやガイダンス、セミナーの情報（開催時期、出展者等）を提供するとともに、相談者の就農候補地で農業経営に取り組んでいるベテラン・先輩就農者や農業法人の情報も共有し、積極的に情報収集することで就農イメージを明確にするよう、促した。



就農相談の様子

今後の意気込み

インターネット上で得られる情報だけでは分かりにくいことも多く、実際に窓口に行き相談することでしか得られない情報が多くありました。

農業の知識や栽培経験のない私でも、受講できる研修制度があるのは大変ありがたいと思います。

就農に向けては、まだ手探りの状態ですが、親元の地域住民や役場の担当者などにも相談しながら、無事に農業をスタートさせ、定年後を生き生きと過ごしたいと思います。

専属スタッフ所感

就農相談でお会いするほとんどのの方が、「田舎で農業を始めるのも良いかな」という思いでお越しになるケースが多く、必ずしも、農業で身を立てるという明確な意志がある方ばかりではありません。

私達の業務は、「就農入口」に該当する部分だと思いますが、地方移住やUターン後の就農促進につながるよう、積極的に情報提供していきたいと思っています。

今後も、一人でも多くの相談者の方々とお会いし、地域の担い手としてステップアップ頂けるよう、応援します。



栽培指導を受ける井出氏（写真右側）

概要

- ◆氏名・所在地
井出 雅文 徳島県阿南市
- ◆就農年
令和2年11月
- ◆経営規模
露地すだち 1.7ha、シキミ 1ha
- ◆従業員数
常時雇用 2名
- ◆事業内容
露地すだち、シキミ等の栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

東京から徳島へUターンを検討していたところ、両親が農家ということもあり、両親が営んできた露地すだち、シキミ経営を引き継ぐことを決めた。
規模拡大を考えて、近隣市町の果樹園も視野に検討していたため、「農業経営・就農支援センター」に相談した。

2 相談内容

両親が営んできた園地の継承に加えて、借地農地を活用し、規模拡大を図りたい。さらに、**規模拡大にともない、雇用環境の改善のために法人化について**などアドバイスいただきたい。

3 支援内容

●関係機関との連携による取組

普及指導センターを通じて、青年等就農資金の活用を促すとともに、今後経営規模を拡大していくための計画作りとして認定新規就農者になるための支援を行った。

●青年等就農計画の作成支援

認定新規就農者になるために阿南市農林水産課や普及指導センターと連携し事業計画の作成を行った。
今後、安定した経営を確立していくため、農業技術の向上、機械化、販路拡大等の取り組みや構想について協議を行った。

●規模拡大に向けた支援

農地情報について、農地中間管理機構のHPを紹介した。また、現地の農業委員会が具体的な情報を把握している旨を説明した。

●法人化に向けた支援

法人化に向けた意見交換や聞き取りを行い。専属スタッフや中小企業診断士から、**資金面や法人設立のタイミング**など、法人化に伴うメリット・デメリットについて説明し、経営の方向性に関する助言を行った。



法人化に向けた相談対応の様子



新植したすだちの園地

今後の意気込み

農業所得向上を目指し、経営規模を拡大するとともに、集落内に雇用の場を創出し、集落の活性化を図り、集落の農地を守りたいです。
今後も、農業経営について、関係者の方々にアドバイスいただきたいです。

専属スタッフ所感

県産のすだちを中山間でなく平地で経営面積を拡大する今後期待できる担い手であり、今後は労働力確保に向けた支援も重要になってくると考えられます。その際に先駆的な農業法人の社長や社会保険労務士を派遣することで安定的労働力の確保に努めていきたいです。



原氏（左）と富野氏（右）

概要

- ◆氏名・所在地
原 純平、富野 明弘 香川県丸亀市
- ◆就農年
令和6年4月（原氏）、令和6年1月（富野氏）
- ◆経営規模
（原氏）ナス 0.2ha、コマツナ 0.3ha、ナバナ 0.2ha等
（富野氏）ナス 0.2ha、コマツナ 0.3ha、ナバナ 0.2ha等
- ◆従業員数
各1名（本人のみ）
- ◆事業内容
ナスを主体とした露地野菜経営に取り組む。

1 就農相談までの背景

原氏と富野氏は学生時代からの友人であり、東京でそれぞれ働いていたが、いつか一緒に仕事がしたいと漠然とした思いを持っていた。原氏はもともと職人に憧れがあり、農業に興味を持ったが何から取り組めばよいか分からなかった。そこで、それぞれの出身地に近い四国を中心に就農地を探そうと、2人で参加した新・農業人フェアで「香川県新規就農・農業経営相談センター」のブースを訪れた。

2 相談内容

移住就農であり、地盤がない土地で農業をするには、多くの農地を集積する必要がある土地利用型経営より、労働集約的な経営の方がよいと、ナスを主体とした経営を開始したいと考えている。

そこで、**香川県の農業や新規就農者への支援等**を知りたい。また、**栽培技術の習得、就農地の選択、農地の取得など就農に向けて準備することが多々あるが、具体的にどう進めればよいか**相談したい。

3 支援内容

●就農相談・研修先の調整

はじめに、就農サポート専属スタッフが「かがわ就農就業マニュアル」等を用い、香川県農業の現状や支援、就農までの流れ等に関する説明を行い、香川県で就農するという決断に至った。

その後、農業経営・就農支援センターのホームページで紹介されている「里親」のもとで一緒に栽培技術等を学びたいとの要望があったが、調整の結果、原氏はJ A 香川県農業インターン制度を活用し里親のもとで、富野氏は里親での研修を終えて独立就農した新規就農者2名のもとでアルバイトという形で研修を行った。

●就農地の決定

里親からの紹介もあり、研修地の近くで農地や作業場を見つけることができ、農地は農地中間管理機構を通して貸借し、就農地を決定した。

●関係機関との連携による取組

当初、二人は共同経営を検討していたが、関係機関との相談会を重ね、検討の末、それぞれ別経営として就農することになった。普及指導センターでは、**就農に向けた情報提供や人とのつながりの支援、市と連携した就農計画作成支援等を実施し**、現在も事業の活用や簿記帳帳等支援を継続している。

地元のナス部会では若手の参入を大歓迎しており、現地研修などの集まりを通して地域のナス農家との交流を深めている。



里親紹介ホームページ



先進農家で研修を受ける様子

今後の意気込み

今後は雇用も導入し、売上で1,500～2,500万円規模に拡大したいと考えています。就農初年目は思ったより売上が高かったですが、2年目の今年は、ビギナーズラックではなかったと証明します。自分から動く周囲の人も協力してくれると実感できました。将来は、同様に新規就農者の助けになればと思っています。ワクワク感を持ち続けて経営していきます。

専属スタッフ所感

新・農業人フェアでの出会いから4か月で就農を決め、香川へ引っ越しという行動力に驚きましたが、その行動力があるからこそ人脈も広がり、就農地も決まり、研修1年で予定どおり就農ということになったのだと思います。

ナス部会や地域の農業者からも貴重な担い手として期待されており、早期に経営を確立できるよう今後も支援を続けていきます。



根来夫妻

概要

◆氏名・所在地

根来 豪 愛媛県松山市

◆研修開始年

令和6年4月

◆研修内容

柑橘栽培での就農を希望し、J A えひめ中央での2年間の長期研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

前職で青果の流通・梱包加工に携わり、食を支える農産物に興味を持つようになった。愛媛県の気候が穏やかで、海・山の自然が豊富なところに魅力を感じた。妻も、愛媛県産のみかんの美味しさに感動し、愛媛県で果樹栽培をしたいと思うようになった。

ネット等で情報収集をする中、愛媛県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）を知り、電話での相談後、大阪で開催された愛媛県就農フェアへ出かけ相談した。

2

相談内容

夫婦で大阪府から愛媛県に移住し、松山市周辺で柑橘栽培を行いたい。

しかし、夫婦揃っての移住への不安、また柑橘栽培についての知識がなかったことから、移住先や就農に向けた栽培技術の習得方法や支援制度等について具体的に知りたい。

3

支援内容

●就農相談活動

支援センターでは、電話相談のうえ、関係資料を提供した。その後の就農フェアで愛媛県及び愛媛農業の概要、品目別の経営指標、技術習得研修機関や就農準備資金、経営開始資金等について説明した。

また、栽培作物や就農希望地域が定まっていたことから該当地域を管轄する研修機関のJ A えひめ中央新規就農研修センター（以下「研修センター」という。）を紹介した。

その後、研修センターで研修計画作成支援を行い、研修を開始した。

●関係機関との連携による取組

研修センターでは剪定、摘果等の柑橘における基礎的な技術や鳥獣害対策等の習得、地域の優良農家での現地研修を行っている。普及指導センターと連携し、定期的な研修状況の確認や個別相談対応を随時行っている。

また、就農希望地の関係機関と相談し、優良農地や倉庫、住居等の情報提供を行っている。

●就農市町村の決定

研修センターや関係機関からの情報提供により、就農市町村を決定した。今後、地権者との交渉等を支援し、2年間の研修終了後、希望地への円滑な就農を目指す。



大都市での移住・就農相談会



夫婦で柑橘出荷調整の研修

今後の意気込み

柑橘を研修できる研修機関を紹介いただき、夫婦で研修を受けることができました。

愛媛県オリジナルのブランド品種（紅まどんな、甘平、紅プリンセス）等の栽培に挑戦し、愛媛の柑橘をもっと世間に広める一助となるべく尽力します。

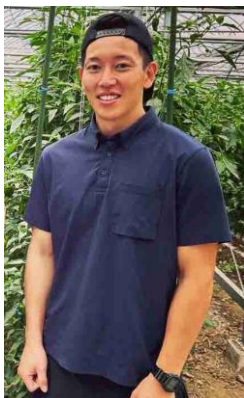
就農後は、地域の農業者の皆さまと一緒に地域を盛り上げていきます。

専属スタッフ所感

支援センターでは、直接面談の他、電話やオンラインでの相談を随時受けています。また、県内外での就農相談会等へも出かけ、相談を受けています。

相談者の希望されている移住先と栽培品目に応じ、研修先を紹介しました。

研修後は、スムーズに就農し、農業経営が確立できるように、関係機関と連携して支援していきます。



高見氏

概要

- ◆氏名・所在地
高見 祐 高知県四万十市
- ◆就農年
令和7年2月
- ◆経営規模
施設ピーマン 0.37ha
- ◆従業員数
なし
- ◆事業内容
施設ピーマンの栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

小さいころから祖父母の農作業の手伝いを行っており、農業に興味を持っていた。高校卒業後は自衛隊に入隊し、その後は航海士として海運会社で働いていたが、農業への興味から、休日を利用して知人の農業の手伝いや農業経営について話を聞くなどの情報収集をしていく中で、本格的に就農を志すようになった。

自己資金だけでは就農は難しいと考え、支援制度についてネットで調べたところ、「農業経営・就農支援センター」を知った。

2 相談内容

情報収集していく中で、農業が簡単なものでないことは理解をしていたが、祖父母が高齢化しており、将来的には祖父母の農業経営も引き継ぎたい。

農業への一定の理解はあるものの、支援制度や就農までの流れが分からない。

また、自己資金だけでは就農は難しいと感じたので、支援制度について相談したい。

3 支援内容

●支援制度や生活面の相談対応

高知県が推進する産地提案書に基づく支援制度を紹介し、はじめに地域を選定することの重要性を伝えた。

自己資金に不安があっては心身ともに安定して就農に向けた研修に取り組めないため、**決して軽い気持ちで研修を始めず、仕事を続けながら、農業への適性を十分に確認する**よう伝えた。

●研修機関等の紹介

就農希望品目がある程度決まっていたため、相談者に適した市町村ごとの研修情報を紹介した。

相談者が県西部に住んでいることから、県西部で希望品目の募集をしている市町村から重点的に相談を進めていくこととなった。

●関係機関との連携による取組

県西部で相談を進めていく中で、四万十市での研修受入れが決まり、四万十市の篤農家の下で実践研修を積むこととなった。支援については、「就農準備資金」を活用することになり、市町村、普及指導センターと連携して、研修状況の確認や就農に向けた総合的なサポートを実施した。

●就農地の決定

市町村での研修受入が決まる段階で、**地域の協力により就農予定の農地にある程度目処がついていた**ため、農地確保の不安を持つことなく、研修に励むことができた。



就農に向けた関係機関との打ち合わせ



実践研修時の収穫作業

今後の意気込み

ネットの情報だけでは分からないことも多く、実際に窓口に行き相談することでしか得られない情報が多くありました。

仕事を続けながら就農への適性を確認することの重要性を教えてもらい、後悔することのないよう立ち止まって考える良い機会となりました。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」又は「体験程度」ですが、相談者は幼少から農業に関わってきたことで、農業の厳しさを理解しており、慎重に情報収集されていました。

就農をサポートする産地の支援体制の充実は重要なことですが、就農希望者自身が自主的に情報収集や研修に取り組むことは必要不可欠なことであり、相談者の意識の高さが円滑な就農につながったと思います。